

◇終業式(7月17日<どんな人にも恥多き青春がある>)

今学期中、一度も失敗したことがない、過ちを犯したことがないという人はいるでしょうか。そういう人は何人もいないのではないかと思います。私も仕事の上で、あるいは私的なことで何度かあります。若かった頃は、相当に落ち込んで、しばらく元気が出なかった失敗もあります。

皆さんの中には犬を飼っている人もいると思います。飼っている犬は散歩が嫌いでしょうか。何匹も犬を飼っている方に、数ある中には散歩の嫌いな犬もいるでしょうとお聞きすると、「そんなの犬じゃない」と言われてしまいました。散歩の嫌いな犬がいないのと同じように、失敗とか過ちを犯さない人間なんていません。失敗とか過ちを犯しながら人間は成長するのです。聖人君子とまで言われるような立派な人でも、恥多き青春時代があるということです。失敗などにくじけないでほしいと思います。

※^{みじ}惨めな思^{みじ}いは誰にもあるのに、自分だけがと考えると、惨めさは倍増するかもしれません。人生の蹉^{みじ}跌^{みじ}を乗り越えるには、自分を許すことができなくてはいけません。

◇分かる授業の展開には

「分かる授業を展開する」ということに対して異を唱える教師はいない。教師なら分かる授業を展開したいし、また、当然の責務でもあります。しかし、言うのは簡単だが、本当に全生徒に分かる授業を展開できるのでしょうか。既習内容を十分に理解している生徒に対してなら、日々分かる授業も展開できますが、そうでない場合には、難しいのではないかと思います。

教科書は新年度になると多くが新しくなり、旧教科書は使いません。1年生の内容が理解できていなくても2年生の内容に入ります。このような繰り返しが小学校より続いているのです。七五三なる言葉を以前しばしば耳にしました。小学校の内容を理解している小学生は7割、中学校の内容を理解している中学生は5割、高校の内容を理解している高校生は3割という意味でした。人には誰にも得手不得手があり、また、発育発達に個人差があります。全員が同じではありません。分かっていない生徒がいても、どんどん先へ進まざるを得ない状況は、生徒だけでなく教師にとってもつらい現実で、早急に改善されなければなりません。そのためには、教師の声が教育行政に反映されていくことが大切でしょう。既習内容を理解していない生徒も大切な生徒です。

習熟度別授業、ティーム・ティーチング(TT)、選択制授業、35人学級の導入は、今まで分かる授業の展開に貢献してきましたが、それだけでは不十分です。例えば数学なら、3年間使える教科書で、それぞれの力に合わせて取り組めるような構成になっているとか、小学校の内容も振り返って学習できる小冊子のようなものが用意されているといった工夫がされたら、随分違ってくるのではないかと思います。他教科においてもそれぞれ工夫をこらし、最低限知っていてほしい内容を定着させたら、学習の成果は相当に上がることでしょう。

授業は誰だって分かりたいはずですが、家庭学習だって、やる必要がないと考えている人はいないと思います。学びそびれてしまった生徒も分かるようにする。この取り組みは重要で、教師としての真骨頂が発揮されると考えています。家族団らんの時間に、いそいそと塾に出かける状況も相当に改善できるかもしれません。

鋭気を養えたでしょうか。生徒を元気にさせたいなら、まずは教師が元気であってほしいものです。多忙な学期になりますが、健康の保持増進を図りながらの教育活動をお願いいたします。

◇始業式(9月1日<心ではなく生活が問題>)

以前私は、規則正しい生活をするとなればねばりが出ると話しましたが、規則正しい生活をすれば気持ち(心)も変わります。いろんな事件が発生する度に、心の問題を指摘する声が上がりますが、加害者の生活実態(働く意欲に乏しく遊んでばかり、不健全なビデオや雑誌に囲まれ、乱れた生活習慣など)が明らかにされると、心の問題というよりは生活の問題とされるべきことが多い。いい加減な生活は人の心をダメにする、ということだと思えます。

2学期が始まったばかりです。しっかりした生活をして大いに心を磨いてほしいものです。皆さんも十分承知していると思いますが、学校生活では、学習や運動で好成績を収めることも大切ですが、それよりも人格を磨き人間性を高めることはもっと大切です。

※青少年に関わる衝撃的な事件では、しばしば心の問題が指摘されますが、具体的な妙案は出てきません。心の問題で終わらせると、物事の本質を分かりにくく見えにくくしてしまうように思います。心の問題などまずない、あるのは生活の問題と考えてはいかがでしょう。

◇子育ては自然体で

随分前の一時期、私は教職員の多くがよい子と評価する子の保護者と話す機会があると、決まって、「どのように育てたのか、ぜひ教えてほしい。教師は教育の専門家でなくてはならないので」と聞いていました。すると皆さん不思議そうな表情を浮かべ、「家での様子を見ていると、よい子とは思えませんが」とか、「どこがそんなによいのですか」、「普通にやっているだけですけど」と常に決まったような答が返ってきました。

習い事をさせたり、学習塾に通わせたり、子ども優先に事を進めるなどの気遣いをし、かなりの努力をしている人も世の中には少なくないと思いますが、普通に起きて食事をし寝る。過剰な期待もしないが全く期待をしないということもなく、過干渉もしないが放任もしない。保護者は一生懸命働き、家庭内には和やかな雰囲気がある、といったことが重要と話していて感じました。要するに、子育ては自然体が大切ということをお教えされたと思っています。

◇読書の奨励

最近では、読書の時間を日課表に組み入れ、読書を奨励する学校が増えたように思います。テレビやラジオを見たり聞いたりする時間はたくさんあるのに、大学生になっても漫画しか読まないなんて、と活字離れが指摘されたりしましたが、改善に向けて多くの学校が動き出したようです。

趣味と聞かれれば、ゴロ寝と読書と答えていた時期もあった私ですが、随分本を読まなくなりました。三国志、史記、十八史略、水滸伝、武将列伝、葉隠、宮本武蔵、親鸞、太閤記、氷川清話、夢酔独言、孫子など、ウイスキーをちびりちびりとやりながら読む、これを人生の幸せと感じた時代もありました。活字離れは青少年だけの問題ではありませんが、少なくとも、忙しくて読みたくも読めない状況があってはならないし、読むことの楽しさを知らずに卒業してしまうことのないようにしたいものです。